

■3月25日(土)「早春の鶴見緑地で春の生きものを探そう！」

場所／鶴見緑地公園 天候／薄曇り

スタッフ／5名

参加者／大人5名 子供9名 合計14名

観察内容／初めに集合場所近くで、早春を代表する

マンサクの花を観察。初めてマンサクを見た子供たちは「ビニールで作ったみたい！」と言っていました。でも、手で触ってみて、やっぱり花だと、納得したようでした。中央ゲートから公園内に入ると、カンヒザクラが満開でした。ユキヤナギ、白とピンクのアセビも咲いていました。水の流れの瀬んだところで、眼を凝らして見ると、何やら動き回っています。網で掬うとミジンコやヨコエビがいっぱいいました。顕微鏡で観察すると、ミジンコは卵を持っていました。さらに進み、竹林のある広場へ。足元にはヒメオドリコソウ、ナズナ、タネツケバナ、ホトケノザ、ハコベ、オオイヌノフグリ、キュウリグサなど春の草の花がいっぱいです。ツクシもたくさん見つかりました。



林の中に入り、伐採された木をスコップで崩したり、アベマキの根元を掘ったりしていると、タマムシの幼虫やカブトムシの幼虫が出てきました。

落ち葉の中には、立派なヒラタクワガタの成虫も隠れていました。風車の丘はナノハナが満開、シモクレンの蕾も大きく膨らみ、今にも咲きそうです。鶴見新山の麓を歩いているとき、目ざとい



スタッフが石垣の隙間の中に飛び込むシジュウカラを見つけました。その隙間の中を懐中電灯で照らして見ると、枯れ草を敷いた巣で、ひな鳥がいました。我々が入れ替わり立ち替わり巣穴を覗き込むので、外にいた親鳥が盛んに怒ったかのように鳴いていました。シジュウカラの巣は木にあるものと思っていたのですが、本当にビックリです。梅林で梅の花の香りを嗅いだ後、山の広場で満開のアンズの花にも鼻を近づけて

もらいました。アンズには芳香がありません。よく似た花ですが、香りの有無で区別がつかず。日本庭園の池でマガモ、カルガモ、アオサギ、コサギを見た後、大池の北側でまとめ。印象に残ったものを参加者の方に発表してもらいました。一番はヒラタクワガタでした。次がシジュウカラの巣穴、さらにマンサク、ナノハナ、ツクシ、カナヘビ、オオキンカメムシも印象に残ったようでした。目や鼻で、また触ってみて、春の息吹を感じた観察会となりました。